



中四国 いんぶん め〜しょん

2019年8月
第28号



企画・発行 日本赤十字社中四国ブロック血液センター 学術情報課 Tel 082-241-1619
協力 中四国ブロック内各赤十字血液センター

日本輸血・細胞治療学会認定・アフゼーシスナーズについて

日本輸血・細胞治療学会は、アフゼーシスの正しい知識を有し、アフゼーシスを受けるドナーと患者への的確な看護を実践し、アフゼーシスの安全性の向上に寄与することのできる看護師を育成することを目的に2010年、学会認定・アフゼーシスナーズ制度を導入しました。医療機関では、血液成分分離装置を用いたアフゼーシスは末梢血幹細胞、リンパ球等の採取で行われていますが、血液センターの看護師は、血小板や血漿の採取を行うアフゼーシスに携わります。2019年4月現在263名がアフゼーシスナーズの資格を取得しており、そのうち175名が血液センターに所属しています(図1,2参照)。中四国ブロック血液センターでは、献血者の安全性向上や採取成分の製品化率向上のために、アフゼーシスに精通し安全なアフゼーシスに寄与することができる看護師の育成を目的に2013年～2016年の



図1) 地域別アフゼーシスナーズ数(赤十字血液センター、医療機関等)



図2) 所属別アフゼーシスナーズ数

間、研修会の開催等資格取得の支援を行ってきました。現在、中四国ブロック内に60名のアフゼーシスナーズが在籍しており、今年度も数名が受験予定です。活動としては成分採血にかかる過誤の分析と改善、血小板採取における減損調査及び分析と改善、採血副作用の発生内容分析と防止対策の検討等を行っています。昨年度、医療機関に所属するアフゼーシスナーズの実態が「末梢血幹細胞採取に携わる学会認定・アフゼーシスナーズの活動に関する調査」※において明らかにされ、継続教育と情報交換の場の提供が必要であるとされました。医療機関の調査に引き続き実施した血液センターに所属するアフゼーシスナーズを対象とした調査でも同様に資格取得後の継続教育が求められ、成果の実態等が明らかとなりました。この調査では、大半が資格取得後もトレーニングが必要と回答し、知識の習得や最新情報を求めており、アフゼーシスナーズの約8割が学会・シンポジウム・勉強会等に積極的に参加していることも明らかとなっています。活動成果として「スタッフへの教育、指導」「血小板減損率低下」「ドナーに熟練した技術とケアの提供」「インシデントの低下」等が挙げられ、中四国ブロック内の活動でもこれらの活動成果はあったと考えます。

血液センターの看護師の使命は、患者の方々が必要としている輸血用血液及び血漿分画製剤の製造を目的とした採血にあたり、献血者の安全確保と採血された血液の品質確保です。今後も自己研鑽を続け組織のレベルアップ、さらに地域の輸血医療に貢献すべくアフゼーシスナーズの存在意義を示したいと思います。

※日本輸血・細胞治療学会誌.Vol.64(No.4)614-618,2018

(中四国ブロック血液センター 献血管理課 牧野志保)

やまぐち献血ルームFor you盛り上がっています!!

山口県では、平成30年3月に、下関市にあった献血ルームを山口市の血液センターに移転統合し、「やまぐち献血ルームFor you」としてリニューアルオープンしました。

献血ルームの活性化対策として、平成30年度には、さまざまなイベントやキャンペーンを実施しました。その中から、主な3つを紹介します!

1つ目は夏と冬に実施した「献血ルームまつり」です。かき氷、昔遊びコーナーなどの屋台を用意したり、山口県出身の特別ゲストを呼んだりして、子供も大人も楽しんでいただけるまつりにしました。夏のゲストには、山口ゆめ花博でも歌った歌手の原田侑子さん、冬には世界大会で3位に入賞した実績のあるマジシャンの高重翔さんをお呼びしました。夏まつりでは、2日間で400人をを超える来場者数を記録しました。青少年赤十字(JRC)と学生赤十字奉仕団(SRC)の学生もスタッフとして参加し、非常に盛り上がりました。

2つ目は「高校・高専タイアップイベント」です。これは、各校の教諭や生徒と共に企画し、茶道部によるお茶の接待、華道部による生け花展示、箏曲部による演奏などを実施しました。特に、徳山高専の茶道部による本格的なお点前には、献血者も、同伴で来られた方も非常に満足されていました。報道機関からも取り上げられ、今後も他の部活動とのタイアップイベントを実施する予定です。



3つ目は「ワークショップ」です。5月は母の日イベント【ハーバリウム】、6月は父の日イベント【フラワーアレンジメント】、7月は夏休み工作【ハーバリウム】、12月はクリスマスイベント【クリスマスリース】として、それぞれワークショップを開催しました。徐々に浸透し、今ではイベント告知後、予約で埋まるほどの大盛況イベントとなっています。ハーバリウムは講師の先生の指導のもと、皆さん思い思いの作品を作り、クリスマスリースは病院の輸血検査担当技師さんのご協力のもと、壁一面に展示しました。

このような活性化対策により、平成30年度献血者数は、8年ぶりに一万人を超える結果となりました。今年度も若年層をターゲットに、趣向を凝らしたイベント・キャンペーンを実施し、献血を盛り上げていきます!

(山口県赤十字血液センター 献血推進課 蔵増拓朗)